非政府組織（NGO）花盛り。難民キャンプや無医村で救援活動をするグループは多いが、その現状を「多くの国から医師や看護婦が派遣されても、住民の生活水準が上がらねば、医師団が去った後に不安だけが残る」と指摘する。

大学生最後の夏休みに、邦楽サークルの旅行でタイ・クワイ川奥地の少数民族村を訪れた。「薬が底をつくとすぐに伝染病がまん延する。そんな現場を見て、現代医療の限界を思い知った」。みんなが幸せに暮らすために、医師は何ができるのか。ひとつの答えとして一九八四年、アジア十三カ国の医師四百人が連帯する国際医療組織「アジア医師連絡協議会」（略称AMDA）を岡山に設立した。

理念は「アジアの良き医療、良き将来」。タイ東北の農村で二年前から進める開発支援は、農村部に有機農法を導入して大地をよみがえらせ、医師を派遣して農民の生活を安定させる息の長いプロジェクトだ。

化学肥料で土地が荒れ、破産した農民が流入して起こるスラム化対策に取り組んでいたのが、当時バンコク知事のチャムロン氏だった。去年十一月、バンコクで出会い共鳴。チャムロン氏が、有機農業の先進地・岡山の視察を熱望した。

「外に出ていくだけでなく海外の指導者を招いて日本の技術を持ち帰って広めてもらうことも。これからのNGO活動には重要。チャムロン氏の来日を機にこうした活動も注目されていくはず」

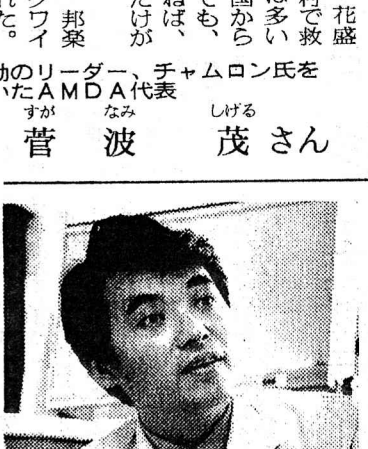
AMDAの活動には多額の資金が要る。地域住民のためにと十一年前、岡山市の郊外に開設した鉄筋コンクリート三階建ての医院をさして「借金コンクリートですよ」。ジョークを飛ばしながら、目は輝いていた。

（長谷川　利幸）

ひと

タイ民主化運動のリーダー、チャムロン氏を農業視察に招いたAMDA代表

菅波（すがなみ）　茂（しげる）さん



広島県生まれ。岡山大卒。岡山市の心臓病センター榊原病院勤務を経て、菅波内科医院を開業。84年、アジア医師連絡協議会を発足。現在、代表を務める。45歳。